

材料の特徴を生かしながら、自分の思いを表現できる生徒の育成

～イメージを形に置き換える「試しの活動」と「操作活動」の導入～

特別研修員 図画工作・美術 濱田大作（中学校教諭）

生徒の実態

○材料から発想する力が弱い。○自分の思いを形にすることが苦手な生徒が多い。

題材

「自分に吹く風を表そう」

紙から様々な形を発想し、自分の心に吹く「風」を表現する題材。

学習の流れ

材料の特徴を理解し、
発想を広げる

手立て①

材料の特徴を知るための「試しの活動」

素材（紙）の特性を理解するため、
様々な表現方法で加工する。



発見した加工方法	簡単な形	さらに発展すると...
折る コピー紙	 きゅーい折る	 しぼり折りに!
切る	 縦に切る 横に切る	 中も活かして切る
丸める	 丸める 引く	 筒状に 長く作る

「切る」や「丸める」、「ちぎる」など、様々な方法で紙を加工し、形を生み出した。

友達との交流を行い、
さらに形を発見した。

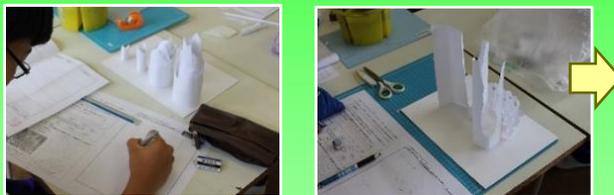
主題の明確化
作品のイメージ化

主題に基づき、
作品を制作する

手立て②

イメージを形に置き換えるための「操作活動」

「試しの活動」でつくったものを土台の
上に並べ、主題と全体の構成を考える。

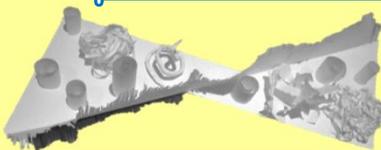


数や大きさ、向きなど、どのように並べると
自分の表現したいものに近づくかを、手
を動かしながら考えた。

「操作活動」を基に、自分の表現
したいものをワークシートに整理
した。

生徒の完成作品

題名「今の自分と未来の自分に吹く風」



コピー紙、和紙、ケント紙
を組み合わせ、「今」と「未
来」の自分を対比させなが
ら表現することができた。

題名「乗り越える風」



定規で丸めた形を「壁」と捉
え、乗り越えるための試練を
三角形やくしゃくしゃにした形
で表現することができた。

成果

- 「試しの活動」で多様な形を発見することが、材料の特徴を捉えるだけでなく、発想を広げ自分の主題を生み出すことにつながるようになった。
- 「操作活動」を通して、手を動かしながら作品全体の構成を考えながら主題を明確にすることができた。

課題

- 「試しの活動」では、材料と向き合う必要感を持たせるために、言葉掛けや教材の提示の仕方を工夫する必要がある。
- 「操作活動」では、単に並べるだけでなく、主題の明確化に向けて自己をじっくり見詰めていけるような働き掛けが必要である。